

りそな経済フラッシュ

(イスラエル紛争)

2023年 10月 13日
りそなHD 市場企画部
担当：苅谷

- 根深い歴史的な対立の背景やイスラエルのアラブ諸国との接近阻止を目的にハマスがイスラエルを攻撃、イスラエル内での紛争が続いている。
- イランの紛争への参入やイランが支援する武力勢力による本格的な攻撃などをトリガーとした戦火の拡大がリスクシナリオとして懸念されている。

イスラエル

根深い対立から何度も衝突

ハマス

イスラエル内のガザ地区を実効支配する武装勢力

「鉄の剣」作戦

- ①領土内の敵勢力の一掃 ②ガザ地区に潜むハマスに甚大な損害を与える ③他地域から戦争に参加するものを防ぐ

目的

「アルアクサの洪水」作戦

聖地奪還を名目としているが、イスラエルがアラブ諸国と接近し、包囲されることを危惧したと見られている

戦力

常備軍15万人、予備役30万人

正確な数は不明。2021年イスラエル軍によるハマスの推定戦力は約3万人の軍隊、ミサイル約7千発など

支持する国

欧米をはじめとする西側諸国など

イランやイラク、イスラム諸国など

【現状】

イスラエル内で紛争

- ・イスラエル軍がガザ地区を封鎖し、空爆。また、ガザ地区への地上戦を準備中 (左図A)
- ・レバノンからの砲撃も続く (B)

【想定されるシナリオ】

イランや武装勢力が紛争に本格参入し、戦火が拡大

イランや武装勢力“ヒズボラ”が紛争に参入他地域に紛争が拡大し中東情勢が深刻化

米がイランに追加制裁

イランの関与が判明し、米が追加制裁原油の供給懸念が高まる

国内の紛争が燻り続ける

他地域に拡大せず、大規模な戦闘は徐々に鎮静化へ

【マーケットの反応】

リスク資産急落・原油急騰・インフレ懸念再燃

原油価格上昇

一時的な反応に留まり、徐々に注目度が低下

反応大

反応小



出所：Bloomberg, 各種報道

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな経済フラッシュ

(イスラエル紛争)

 2023年 10月 13日
 りそなHD 市場企画部
 担当：苅谷

【過去の地政学リスク台頭時のマーケット】

イラク戦争（2003/3/20～）

	1か月後	3か月後	6か月後	1年後
ドル/円	△ 1%	△ 2%	△ 4%	△ 11%
日経平均株価	△ 2%	+13%	+35%	+42%
WTI原油	+2%	+2%	△8%	+27%
米10年金利	△0.0%	△0.6%	+0.3%	△0.2%

事実

2003年米国を中心とした連合軍がイラクへ軍事介入をしたことでイラン戦争が開戦し、2011年まで続いた。

資産の値動き

米国が“最後通告”を行っていたこともあり、開戦前からリスク資産は下落。開戦後は、戦況が徐々に連合軍優勢になるにつれリスク資産は反発、金利や原油価格は落ち着く展開となった。

ウクライナ侵攻（2022/2/24～）

	1か月後	3か月後	6か月後	1年後
ドル/円	+6%	+11%	+19%	+19%
日経平均株価	+6%	+1%	+8%	+4%
WTI原油	+24%	+20%	+2%	△17%
米10年金利	+0.5%	+0.8%	+1.1%	+2.0%

事実

2022年ロシアがウクライナのNATO加盟を警戒、外交努力むなしくロシアがウクライナへ侵攻。現在も戦争状態が続く。

資産の値動き

原油価格が急騰、リスク資産は下落するも、西側とロシアの直接的な衝突はなく、主要国経済への影響も限られるとみられ、過度な警戒感は短期的に留まった。

出所：Bloomberg,各種報道

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。